



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

カタール：社会事情（外国人労働者のストライキと男女の格差に関する調査報告）
（7月6、9日付現地各紙）

1. 外国人労働者のストライキ（7月9日付ガルフ・タイムズ）

現地の労働者キャンプにおいて、アジア系外国人労働者数百名による賃金引上げを求めるストライキが発生し、治安当局が一部労働者を拘束した。

(1) 7日、インダストリアル・エリア及びワクラ市の建設会社労働者キャンプにおいて、アジア系外国人労働者数百名が一斉に出勤を拒否、賃金引上げ等待遇改善を求めてストライキを実施した。発生2日目の8日もストライキは続いている。

労働者側は、現在の月額600カタールリアル（約18,000円）程度である賃金を約25%引き上げることを会社側に要求している。労働者からは「物価が急激に上昇しているため現在の賃金では生活費が賸えない。母国にいる家族への仕送りも出来ない」との声が上がっている。

(2) 会社側、治安当局、外交団の対応

a. 会社側

会社側は現在のところ、労働者側に対して対案（回答）は提示していない。

b. 治安当局

8日、治安当局はストライキを主導していた一部労働者を拘束した。拘束された労働者の正確な人数は発表されていない。

c. その他

ネパール大使館担当者は「今回のストライキに関して、約80名のネパール人労働者が警察に拘束された模様だ」と述べている。また、複数のアジア諸国の外交団は、治安当局から自国民の労働者拘束についての通報があったことを認めた。

2. 男女の格差に関する調査報告書（7月6日付カタール・トリビューン）

(1) 男女の格差に関する国別調査報告書「性格差指針（Gender Gap Index 2007）」において、カタールは128ヶ国中第109位にランクされた。カタールは女性の経済分野への参加に関する項目で115位、政治分野への参加に関する項目で124位であった。これは、労働力及び議会における女性の人数の少なさが主な要因である。また、カタールでは官民間問わずトップの地位を占める女性は少なく、技術系分野に従事する女性はさらに少ない。一方で高等教育分野では女性が大きな前進を遂げている。

(2) カタールとオマーンが今回はじめての同誌のリストに加えられた。クウェイトが96位でGCC諸国の中ではトップであり、UAEは105位、バハレーンは115位、オマーンは119位、サウジアラビアは124位だった。

(3) ジェンダー分野の専門家であり、開発計画事務総局に勤めるシュレイア氏は、「10年後のカタルは大きく異なっているだろう。訓練を実施し、社会的価値の認識を高めれば、カタルの女性の更なる社会進出が見込まれる。しかし変化は徐々に現れるであろう。技術革新を遂げた西洋でも、性の格差がないとは言えない。科学技術の変化は社会や文化の変化よりもずっと早く現れるのである。」と述べた。

(4) ナスルッラー中央自治評議会（CMC）顧問は以下の通り述べた。

a. 懸命に働く人間が職を得る。そこに差別はない。危険な職で女性を雇いたがらない傾向はあるかもしれないが、それは差別を意味するのではない。

b. 少なくとも中央自治評議会では、人物が適材適所で採用されている。もし女性が適任だと判断されれば、その女性が採用される。

(5) 同報告書は、アラブ諸国のほとんどが国際基準を下回り続けているだけでなく、状況改善に向けた努力が欠けていると指摘。GCC 諸国の数カ国のみにも努力が見られると評価している。